

自閉症児の特性に応じた指導方法の工夫

1 はじめに

自閉症の指導・支援の原則は『自閉症』から出発すること

2 『自閉症』について知ること

自閉症の行動特徴(自閉症の三つ組み)
対人関係の質的障害
コミュニケーション障害(言語・非言語性)
興味の限局・同一性保持(想像力の欠如)
他に、感覚情報処理の問題も大きい。
以上が、生涯にわたって続く。

3 個別的な観点を持つこと

『自閉症』としての共通項と個々の現れ方の違い
一人一人の子どもを評価することの大切さ
個別的な支援という発想が必要

常時個別で一対一対応するというわけではない。また、学習集団での指導を否定するものではない。

4 指導・支援に大切なこと

まずは世の中をわかりやすくして安心できる環境を整えることが前提

苦手な面ばかり問題にしないで得意な面を活かすという発想

発達の違いや偏りに注目するだけでなく今の力をどう生活に活かすかを大切に

障害の特性をなくそうとするのではなく自閉症として楽に生きていけるように

5 構造化(特性を尊重した伝え方のアイデア)

いつ

どこで

何を

どのように

どのくらい

終わったら何があるのか

個々のレベルに合わせた方法で、世の中の意味を分かるように伝えること

6 まとめ

- (1) 構造化が自閉症の人への指導や援助のゴールではない。
構造化はあくまでも、生活し易くするための支援である。
構造化=衝立やカードでは絶対でない。
- (2) 構造化の目的は、自閉症の人が安心して生活していくためのもの。
- (3) 安心して生活していくための環境を整えることが大切。
個室も、本人の生活を広げるための対応。
- (4) 安心できたら、少しずつ本人の発達や状況に合わせて世界を広げていくこと。
- (5) 自閉症そのものは克服できないが、自閉症ゆえの様々な問題や困難さは軽減していける。

